

熱せん妄^{もう}について

ナースのメモ帳から引用

熱せん妄とは、高熱が出た時に起こるせん妄状態のことで、人によっては異常行動を起こすことがある。

せん妄には下記のような症状がある。*厚生労働省「インフルエンザ脳症ガイドライン」から

- ・事故につながったり、他人に危害を与えたりする可能性がある異常な行動
- ・幻視・幻覚・感覚の混乱
- ・うわごと・歌を唄う・支離滅裂な言動・無意味な動き
- ・おびえ・恐怖・怒る・泣き出す・笑う・無表情・無反応
- ・歩き回ったり外に出て徘徊したりする
- ・何でも口に入れてしまう 等

熱せん妄の原因

主な原因としては、熱によって脳内で作られているノルアドレナリンやドパミンの過剰分泌により、ホルモンバランスが崩れることが指摘されている。また、高熱により、もうろうとしているため、夢と現実の区別がつかなくなり、パニック状態になることも指摘されている。

インフルエンザに伴う異常行動

10年以上前にインフルエンザ発症後に、タミフルを服用した患者さんの不明な言動や奇怪な行動が見られ、マンションから飛び降りてしまうなどの事故があった。

そのため、2007年以降は未成年へのタミフルの摂取は禁じられていたが、タミフルとの因果関係は証明できないとして、小児への投与が可能となった。

理由としては、タミフルやイナビルなどのインフルエンザ治療薬の服用の有無に

関わらず、小児を中心に異常行動が見られたためである。

厚生労働省の発表では、2010～2018年のインフルエンザ時期の異常行動が95件確認されている。

子供が中心の発症だったが、2割近くのケースでは薬を服用していなかったことが分かった。このことから、治療薬との因果関係は証明できていない。

タミフルに関する「重要な基本的注意」の記載も

「抗インフルエンザウイルス薬の服用の有無または種類にかかわらず、インフルエンザ罹患時には異常行動を発現した例が報告されている」と改められた。

「重大な副作用」の欄には因果関係は不明としつつ「異常行動」が追加された。

また、インフルエンザによる異常行動は、通常の熱せん妄に比べて発症期間が長いことが指摘されている。

熱せん妄は、発熱の1日目と2日目に起きることが圧倒的に多い、インフルエンザでは治療薬を服用した後でも異常行動を起こすことがあり、発症からおよそ5日間は注意が必要だと指摘する医師もいる。

前述した95件のケースのうち、多くのケースで熱せん妄がインフルエンザ発症から2日以内に起きている。そのため、厚生労働省は、発熱から2日間は患者をなるべく1人にせず、窓の鍵を確実にかけるよう、注意喚起している。

熱せん妄の症状は、基本的に数分から数時間以内に治まることが多いが、それ以上長く続く場合は、脳炎や脳症の可能性もあるので、速やかに医療機関を受診してほしいと医師は呼びかけている。

インフルエンザは症状が悪化するとインフルエンザ脳症という病気を引き起こし痙攣や脳浮腫、異常行動などの症状が見られ、場合によっては死亡する例もある。

*別資料「厚生労働省 インフルエンザ脳症ガイドライン」を参照

小さいお子さんがいる方は特に気を付けて、インフルエンザ発症時は、念のためなるべくそばに付き添い、可能な限り目を離さないようにしたい。